

関東良陵だより

東北大学関東良陵同窓会

関東連合会定期総会開催

平成二十一年度、関東連合会定期総会は、平成二十一年六月二十日(土)午後四時三十分より市ヶ谷私学会館アルカディア四階会議場にて、約四十名の会員が参加して、左記の式次第で行われた。

- 一、 開会の辞
 - 二、 物故会員への黙祷
 - 三、 関東良陵同窓会会長挨拶 高橋俊雄会長
 - 四、 経過報告 新田澄郎幹事長 根本 宏副幹事長
 - 五、 各部会報告 女医部会 田中佐喜子常任幹事
 - 六、 庶務担当 根本 宏副幹事長
 - 七、 会計報告 岩瀬 光常任理事
 - 八、 開会の辞
- 特別講演 「東北大学医学部の現状と将来展望」
山本雅之先生(昭和五十四年卒)
- 懇親会 司会 岩瀬 光先生
アフターディナーコンサート
出演 ソプラノ 九嶋香奈枝
- 各会員近況報告
閉会の辞

東北大学良陵同窓会関東連合会総会(通称関東良陵会)は、平成二十一年六月二十日(土)、市ヶ谷アルカディアで開催された。今回は、総会開催に先立ち午後二時から、押田茂實日大教授のお世話で首都圏大学の教授、准教授など約二十名が集まり、第一回関東良陵教職員会(仮称)が開催された。本会の目的は、母校東北大学を離れ首都圏大学で孤軍奮闘している良陵会員から出来るだけ多くの教授が輩出するよう情報交換、相互援助、母校東北大学との連携等である。押田教授からこれまでの経過報告があり、引き続き東北大学医学部長山本雅之教授の「東北大学医学部の現状と今後の期待」、東京都病院経営本部高橋俊雄東京医師アカデミー運営委員長の「東北、関西、関東での医学教育、病院改革と東京医師アカデミー」の講演、今後の会の運営などを検討し極めて建設的有意義な会となった。

午後四時三十分から総会が三十六名の会員出席の下で行われた。物故会員に黙祷の後、今回は関東良陵同窓会に六名の新任教授が誕生したこと、若手会、女医会の報告、庶務報告、会計報告等がなされ総会はスムーズに終了した。引き続き、東北大学医学部長山本雅之教授の「東北大学医学部の現状と将来展望」と題する特別講演が行われた。本講演は、母校東北大学医学部が世界の研究拠点として発展しつつある姿を披露され会員に夢と希望を与え、一同大いに感銘した。

続いて懇親会に移った。(次ページに続く)

(前ページより続く)

恒例のアフターデナー・コンサートでは、本格派ソプラノ歌手、九嶋香奈枝さんのオペラ、オペレッタ、日本歌曲の演奏が行われた。オペレッタでは会長ならびに九十歳になられた飯島俊夫先生が相手役として選ばれ立派に？その役を果たした。最後に九十一歳になられた神津康雄前会長が声量豊かに仙台の「荒城の月」を歌ってコンサートは終了した。その後、各人の近況報告などを行い、和気藹藹の内に会は終了した。

(文責 会長 高橋俊雄)

支部だより

栃木県支部長 金子長次

私の知る限り栃木県良陵会として単独で同窓会を開催した事は数えるほどしかありません。関東連合会があるので屋上屋的なものはない要ということか、支部会則もあり

ません。十年毎に回って来る秋の関東良陵会に便乗し、併せて地元の総会も行われていました。ところで、この度関東良陵会秋季総会の各県回り持ちが廃され十年毎の節目の会が無くなったので、いよいよ会則を作り自前の総会を催す必要に迫られています。会員の構成も以前は開業医が大部分であったものが、独協、自治医大、国際福祉大、公・私立病院等の勤務医が大変増えていきます。

これらの事を踏まえ心機一転、清新の栃木県良陵会を再構築するべく中堅会員の数名を煩わして会則・人事等の検討を始めるところです。現在の当県良陵会員数約百五十名です。

千葉県支部 鷺 靖雄

良陵会の千葉支部は、2008年版関東良陵会の名簿ですと、一〇四名載っております。

木下巖先生、根岸忠道先生、渡辺和彦先生、三橋啓司先生等と会を持ち、連絡しておりますが、もつと若手の会員にも声をかけ、活動していきたいと思っております。

茨城県支部長 高橋慎一郎

良陵同窓会茨城支部の最近の動

向について報告します。

茨城支部総会は平成二十年九月二十日(土)水戸京成ホテルにおいて行われました。特別講演は東北大学医学部の産期分野教授の岡村博先生(昭和四十七年卒)が「胎児の発育とメタボリックシンドローム」という演題で講演されました。低体重の母親から生まれる子供は、それだけでメタボリックシンドロームを発症するという興味あるお話でした。当時、茨城支部の良陵会の名簿を作成したところ二百九名で、内十二名の若きドクターたちが水戸医療センター(旧国立水戸病院)で研修しておりました。この茨城支部総会の日時が関東連合会総会とダブったのは、特に他意はなく、特別講演の岡村教授の日程によるものでした。根本先生のお話を聞けなかったのは残念でした。

埼玉県支部長 伊藤利男

平成十九年より埼玉良陵の支部長になりました。尚、小生昭和三十八年2外入局、食道班、高橋先生医局時代には、大変お世話になりました。今後ともよろしくお願い致します。

全学同窓会から校友会

「校友会」(シューユーカー)へ

一昨年の東北大学創立百周年記念祝賀事業は盛大に、又相当の成果を挙げて終了した由で、慶賀に堪えない。

実は、井上昭久総長のもとで、百周年記念行事終了後、これまでの二十数年続き、相当の成果を挙げた全学同窓会を発展的に解消し、新たに校友会「校友会」として、卒業生や教職員OBのみならず、在校生、父兄のほか、高校生、諸大学生、一般も含めた会として発足することになり、去る八月二日(日)、東京サピアビルで、第二回の関東交流会と名称を変えて開催された。

会には総長を始め校友会担当副学長等九名の大学首脳が出席し、総長の二十一世紀における東北大学の世界のリーダーダイング・ユニバーシティへの成長についての抱負の挨拶のあと、大学のデザイングウィッシュド・プロフェッサーとして文学部の佐藤嘉倫教授の「人間関係

は犯罪を防げるか?」、工学部内田龍男教授の「画像エレクトロニクスが拓く近未来社会」についての講演があり、それぞれ興味深いお話であった。

終了後、懇親会に移り、百三十余名の出席者が交流を深め合った。

このような全学的な集まりでは、隣に立っておられる方とチヨット言葉を交わすと、慶大名誉教授であったり、東大宇宙科学研究所名誉教授であったりと、偉い先生方と知り合いになれることが楽しい。また、チヨットした立ち話の中で、東北大学の昔のエピソードなどが伺えて興味深い。

なお、神津先生は全学同窓会関東支部長から引き続き校友会関東支部会長を務められることになった。

医学部からの出席者は神津先生に、顔見知りでは新井愛彦(昭和二九)、近藤正太郎先生(昭和三三)の他三名居られた。

(昭和二九 信田記)

東京医師アカデミーについて

いて現在鋭意検討中である。

東京において安心して臨床研修を行うためには、指導体制の整備だけでなく、経済的側面、研修終了後の就職等も極めて重要である。そのために本アカデミーではシニアレジデントには月額五十二万円二千円余、宿舍提供、研修研修費年額十八万円十 α (海外学会費など)、クリニカルフェローについては、平成二十三年創設予定で、更に厚遇を予定している。研修終了後は優先的な都立・公立病院への就職は勿論であるが、医師適正配置連携室を通じて大学、各地への就職を本人の希望に添った方向で行うことにしている。

本アカデミーでは、学閥は全くなく、お互いに切磋琢磨して臨床のプロを目指した欧米式研修が行われている。ぜひ、東北大学卒や、良陵同窓会員の子弟で首都東京で専門研修を受けたいと思っているやる気のある若手医師の応募を期待している。

(文責) 東京都病院経営本部顧問 東京医師アカデミー運営委員長 高橋俊雄

第十二回女医会 開催される

本年の女医会は、平成二十一年七月十一日(土)午後五時～九時、例年の如くJet Streamのセンター十二階で開催された。参加者は佐瀬クララ(S3卒)、小林啓子(S35)、岩村トシ子(S36)、根本宏(S41)、早川純子(S43)、広瀬陽子(S43)、矢後文子(S44)、倉田清子(S44)、川名陽子(S51)、日下康子(H1)、田中佐喜子(S43)の十一名であった。

特別講演は飯野ゆき子先生(自治医大付属大宮医療センター(現)さいたま医療センター)耳鼻咽喉科教授(S49年東北大学卒)による「よくなる難聴とよくならない難聴」について、以下のような講演を頂いた。

先天性難聴は、二歳までに発見して治療することにより、将来的な言語獲得も可能であり、伝音性難聴は、中耳炎を慢性化させないこと(耐菌性を作ってしまう)。感音性難聴は突発性難

聴以外は殆ど治療不可能で、補聴器を必要とするとのこと。また、人口内耳は、三～五歳で装着すると子供達は言語を覚えて将来的に有望であるが、老人性難聴には不適で、補聴器が必要となるとのことでした。また、補聴器は順を踏んで耳に慣れ親しませていく器具であり高価なものがあるので、耳鼻科の先生方の指示に従うことが望ましいとの警告がありました。

次に、女性医師が働きやすい環境について、九年前に亘る自治医大の取り組みについてお話を頂きました。就業継続のために、一週二〇時間の勤務「一日四～八時間を選択する」を施行、育児支援(保育ルーム)、復職支援等の取組みをトップダウン(高久学長自らが、各センターに指示をだして環境を整えるよう指示している)の形式で行い、上司や職場の意識改革を行っているとのことでした。女医先生方の数が全医師の三〇%を超える時代、まだまだ育児と仕事の両立は環境が整わず、労働条件も保障されていない職場が多いた

め、課題が多い問題ですが、女医先生方が後輩のために力を合わせ、仕事が継続できるようにしてゆきたいものです。

(文責 田中佐喜子)



写真右は、楽しい集いに笑顔あふれる女医会の諸先生

アフターテイナ・ レシター

平成二十一年六月二十日(土)市ヶ谷私学会館アルカディアで開催された良陵同窓会総会の懇親会は、ソプラノ歌手の九嶋香奈枝さんが美声を披露しました。曲目は、ヨハン・シュトラウスの作品からオペレッタ「こもり」はじめプッチーニ作曲のオペラ「ジャンニ・スキッキ」等、そしてミュージカル「マイ・フェア・レディ」より「踊り明かそう」さらに日本歌曲からお

馴染みの「さくらさくら」「早春賦」「浜辺の歌」等が歌われた。今回、とても印象的であったのは、身振り手振りも交えて感情を表現するオペレッタが秀逸で、特に「公爵様あなたのようなお方は」と「私の愛しいお父様」では、飯島俊夫先生と高橋俊雄会長がそれぞれ公爵様「お父様」になって、美しい歌手のお相手をさせられて、なかなかの演技をご披露されるハアプニングがあり、雰囲気が大いに盛り立てた。

会費納入のお願い

今年度会費二千円を同封の振替用紙にてご納入ください。

東北大学良陵同窓会

関東連合会東京支部

〒247-0072

神奈川県鎌倉市岡本

TEL & FAX 二・二・一・七〇四

TEL & FAX 〇四六七(四五)〇二八七